

つなげよう 未来にむかって ~学び かかわり チャレンジ~

- 自分で考え進んで学び続ける子【知】
- まちやみんなとの関わりを大切に子【徳 公】
- 夢や未来の創造にたくましくチャレンジする子【体 開】

| | | | | | | |
|------|--------------|-------------------|-----------|-------|----------|-----------|
| 学校概要 | 創立 73 周年 | 学校長 大河内 裕子 | 副校長 宮野 雅樹 | 2 学期制 | 一般学級: 17 | 個別支援学級: 4 |
| | 児童生徒数: 507 人 | 主な関係校: 奈良中 恩田小 桂小 | | | | |

| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 奈良中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
|--|---------------------------------------|--|
| <p><言語能力></p> <p><問題発見・解決能力></p> <p><自分づくりに関する力></p> | <p>奈良中学校</p> <p>恩田小学校</p> <p>桂小学校</p> | <p>ひと、もの、こととの関わりを通して、豊かなコミュニケーション能力をもつ子ども</p> <p>○様々な視点で「観」の共有を図り、義務教育9年間で子どもを育む。 ・「Y-P 関連資料」をもとに小中ブロックで一人ひとりの子どもの姿を共有し、子どもの成長を支援する。 ・「ICT の活用」、「主体的・対話的な学び」をテーマに小中授業研を行い、授業改善を図る。 ・小学校から引き継いだ「個別の指導計画」、「個別の教育支援計画」等を共有し、継続した特別支援の充実を図る。 ・子ども会議、部活動体験の推進</p> |

- 子ども一人ひとりの「学び」の高まりと自尊感情の醸成を大切にします。
- ・「人 もの こと」との関わりを大切にし、主体的に問題を発見し友達と協働して解決する力を育てます。
 - ・一人ひとりの自己肯定感を高め、思いやりの心を育みます。
 - ・健康的な生活習慣を形成し、ねばり強く最後までやりぬく心と体を育てます。
 - ・地域や社会とつながる体験や本物との出会いを通して、自己の成長を見つめる子を育てます。
- 子どもを真ん中にした「チーム奈良」の連携・協働を推進します。
- ・家庭、地域、各関係機関等との連携を図り、「チーム奈良」で一人ひとりの子どもの成長を支えます。

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| <p>知 生きてはたらく知</p> <p>担当 学習研究部</p> | <p>①子ども自身が自分の考えや思いを伝え合ったり、聴き合ったりすることを通して、コミュニケーション能力を向上させることができるようにする。②子どもに育成する資質・能力を明確にし、子どもが成長を実感することができる授業を目指す。子どもたちの実態に合わせたゴール設定、ICTの効果的な活用などにより、個に応じた学びが展開できるようにする。③学年、ブロックで授業を見合ったり、校内外の授業研究会や研修会、自身の授業実践についての情報発信やその共有を行ったりする。④午前中5コマの柔軟な教育課程を編成し、子どもの学びの充実につなげる。特に午後の学習タイムでは、子どもが自らの学びを振り返り、自己調整しながら学習を進めたり、6コマ目と連結し、協働的・探究的な学びに取り組んだりできるようにする。</p> |
| <p>徳 思いやりの心</p> <p>担当 道徳部・児童指導部</p> | <p>①思いやりの心の育成を目指し、道徳の授業について学年を中心に話し合ったり見合ったりして、授業改善を図る。②年2回Y-Pアセスメントを実施し、子どもの社会的スキル横浜プログラムを実施する。③てくら遠足や月1回のたてわり遊び、その他の教育活動でも他学年とのかかわりができるようカリキュラム上に位置づけ、実施する。④進んであいさつをするだけでなく、他者とかかわりを大切に活動を増やしていく。⑤他者から受けた思いやりのある行動を周囲に広げようとする意識を高める。</p> |
| <p>体 健やかな心と体</p> <p>担当 体育部・保健安全部</p> | <p>①身体を動かすことの「楽しさ」を体感させるため、児童会活動を活用し、様々な遊びの紹介や身体を動かす機会を設ける。②学校保健委員会で基本的な生活習慣をテーマに取り上げ、児童保健委員による話し合いや調査、意識喚起をする。③養護教諭が学級・全校への保健指導を意図的、計画的に行い、基本的な生活習慣の意識向上を図る。④バランススイーナワークの活用や、栄養職員のチーム・ティーチングによる指導、給食委員会の活動を通して、食育全体計画に沿って組織的・計画的に食育に取り組む。</p> |
| <p>公開 自分づくり</p> <p>担当 特活部</p> | <p>①たてわり活動等を中心として、「なりたい自分」に向けた学級活動のカリキュラムを見直すとともに、キャリア教育の一環として、出前授業等を活用した本物体験の充実を図る。②前期・各行事・年度末に振り返りを行い、自分づくりパスポートに蓄積していくことで、自分の成長を実感できるようにする。③自己の目標や振り返りの内容を、友達と共有できる場面や時間を意図的に設定し、自己肯定感を高めていく。</p> |
| <p>いじめへの対応</p> <p>担当 児童指導部</p> | <p>①月1回のにこならアンケートや長期休業明け、いじめ防止月間、その他適時の教育相談など子どもがSOSを発信する機会を設定することで、子どものSOSをキャッチし、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む。②年2回のY-PアセスメントとYP支援検討会を実施する。複数の教員で支援検討を行うことで子どもを多面的に理解し、安全・安心な学級風土づくりにつなげる。③月1回のにこならいじめ防止対策委員会が組織的に対応の確認を行う。④いじめ防止研修を実施し、教職員の意識及び組織としての対応力を高める。⑤横浜子ども会議を中心に、児童が主体的にいじめについて話し合ったり、取組を行ったりする機会を設定し、子どもの「いじめは絶対に許されない」という意識を高める。</p> |
| <p>人材育成・組織運営(働き方)</p> <p>担当 教務部</p> | <p>①教育効果という視点で教育活動を見直し、より効率的、効果的な取組となるよう計画、実施、点検、改善を図る。②質の高い学びの実現に向けて、日課表の工夫により生み出した裁量ある時間を資源として意識し有効活用する。③ICTの活用を促進し、業務の削減・統合など業務改善につなげる。④学年を中心に授業づくり、児童理解に協働的に取り組む。主任のマネジメント力を高め、各分掌において人材育成をすすめる。</p> |
| <p>地域学校協働活動</p> <p>担当 特活部・総合部</p> | <p>①地域や外部の人材の教育力を生かした学習の充実を図るため、各学年で「奈良ボラ」リストを作成し、継続的に活用できるようにする。②子どもの実態や学校教育目標に照らし合わせ、意図的・計画的に地域や外部人材の教育力を生かす場面をカリキュラムに位置づけていく。人材の活用や材を開発して学びの充実を図る。</p> |
| <p>特別支援教育</p> <p>担当 特別支援教育委員会</p> | <p>①個に応じた支援が必要な児童について、特別支援コーディネーターを中心にして職員で情報の共有を図り、保護者や児童の声を聴きながら実態に応じて個別支援学級や特別支援教室等を活用し、適切な支援や指導を実施する。②職員研修を通して、児童のもつ様々な特性に対する理解を図り、児童一人ひとりの特性に合わせた支援の仕方を学ぶ機会をもつ。③外部機関との連携を図り、個に応じた適切な支援につなげていく。</p> |
| <p>人権児童指導</p> <p>担当 児童指導部</p> | <p>①人権週間では、外部機関と連携し、全校で発達段階に応じた系統性のある取組を行い、人権意識を高める。②生活目標、人権重点取組目標(あいさつ)などの取組を通じ、児童の自己決定や自律性を支援し、自己肯定感を高める。③YPアセスメントから選定したYPプログラムを組織的かつ効果的に実施し、安全・安心な学級風土の醸成及び子どもの社会的スキルの育成につなげる。④SC.SSW、児相、区役所、警察等の関係機関と連携を図り組織的な対応を行う。</p> |